

2021年11月

7th Taiwan and Japan Conference on Circuits and Systems

参加報告書

群馬大学大学院理工学府電気電子 修士2年

荻原 岳

1. 概要

日時：2021年11月20日(土)

場所：Zoom オンラインミーティング

URL：http://nlab.ee.tokushima-u.ac.jp/nlab/tjcas21_top.html

第7回 Taiwan and Japan Conference on Circuits and Systems (TJCAS 2021) は、2021年11月20日にオンラインで開催されました。TJCASの目的は、回路とシステムに関連する最新の結果について交換するためのフォーラムを提供し、強化および/または台湾と日本の間のさまざまなレベルの協力を発展させることです。回路やシステムのあらゆる面でのオリジナル作品を説明する論文が募集され、発表論文50件、日本・台湾・その他より50人が参加しました。TJCASは、学生を含むすべての研究者が回路とシステムに関する最新の研究を発表することを歓迎しています。

TJCAS2021 ホームページ



Country	2020	2021
Japan	39	27
Taiwan	21	21
U.S.A.	2	2
Total	62	50

	2020	2021
Regular	16	15
Student	45	35
Other	1	0
Total	62	50

	2020	2021
Presenter	33	21
Audience	29	29
Total	62	50

TJCAS 2020/2021 の参加者と投稿論文

2. 発表内容

タイトル：Proposal for High-Precision Nano-Ampere Current Measurement in ATE

内容：DC-AC 変換と FFT を組み合わせたナノアンペア電流測定手法の提案です。ATE での使用を想定して設計され、測定値変動はフルスイング 1nA 以内に抑えられ高い安定性を保ちつつ、40 ミリ秒の測定時間で 20pA レベルの電流を測定できる精度を持ちます。

Virtual TJCAS 2021

2021/11/20

Proposal for High-Precision Nano-Ampere Current Measurement in ATE

Gaku Ogihara, T. Nakatani, D. Iimori,
S. Katayama, J. Wei, Y. Zhao,
A. Kuwana, K. Hatayama, H. Kobayashi
K. Sato, T. Ishida, T. Okamoto, T. Ichikawa



Gunma University
ROHM Co., Ltd.



Kobayashi Lab.
Gunma University

プレゼンテーションスライド(タイトル)

3. 感想

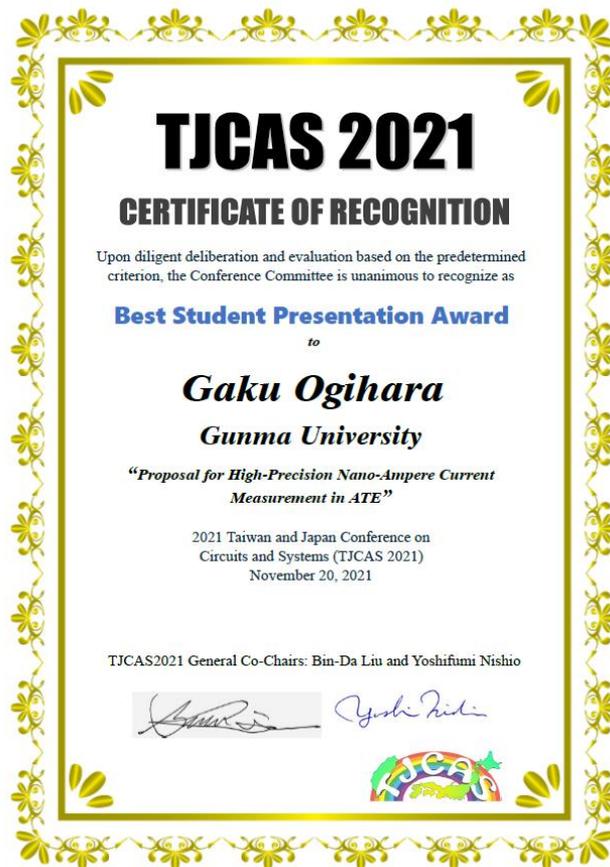
1人あたりの発表時間は、プレゼンテーション8分、質疑応答2分の計10分であった。オンラインでの発表はこれまでも経験していたため、戸惑うことなく行うことができた。時間が押している中で若干巻き気味であったが、十分伝えることができたと思う。質疑応答では、敢えて学術的で難しい単語を避け、わかりやすさを重視して説明したことでより理解していただくことができた。昨年参加した国際学会では、日本人以外の方とのセッションに緊張しきりだったが、この学会では完璧でなくともよいと気張らずにいたことが良い方向に作用したようだった。これからの外国語発表の機会もこの感覚を忘れずに臨みたいと思う。

4. 謝辞

Virtual TJCAS2021 参加にあたりご指導を頂いた小林春夫先生、桑名杏奈先生、研究指導いただいている中谷隆之先生、株式会社ロームの皆様に心より感謝を申し上げます。そして今回 Virtual TJCAS 2021 の開催を支えてくださったすべての皆さまに深く感謝申し上げます。



参加者の皆様



Best Student Presentation Award